

沖縄総合事務局

1 農畜産物の最新の生産状況

(1) さとうきび生産量は平年を下回る見込み

梅雨明け以降全県的に干ばつとなり、6～8月の降水量が平年に比べ大幅に減少（那覇56%、南大東島26%、宮古島62%）。また、相次いで接近した台風による被害もあり、生産量は、復帰後2番目に少なかった昨年（68万トン）よりは増加するものの、対平年比86%（69万トン）となる見込み。



【干ばつ時のさとうきび】



【子牛取引価格の推移】

(2) 肉用子牛の取引価格は4か月連続で過去最高を更新

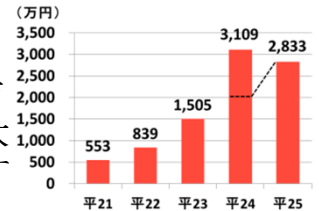
県産肉用子牛は、品質向上による購買者の高い評価と、口蹄疫や東日本大震災の影響等による全国的な子牛不足などから、県内家畜市場における平均取引価格が4か月連続で過去最高値を更新。

2 攻めの農林水産業の展開に関する最新の動き

(1) 沖縄からの豚肉輸出が大幅に拡大

(株) えんグループの香港における琉球料理レストランの拡大や、(有) 丸市ミートの香港の量販店へのアグー豚の納入量増加により、24年の豚肉輸出額は大幅に拡大（対前年比207%、31百万円、全国シェア16%）し、25年はさらに増加する見込み。

県畜産振興公社は、輸出等を支援するため、えんグループ及び沖縄県輸出促進協議会（事務局は丸市ミート）と連携協定を締結。



注:平成25年は1～9月(平成24年の点線は1～9月の額)

【豚肉の輸出額の推移】

(2) 農林高校が開発した新特産品「オクラ麺」の商品化

中部農林高校（うるま市）の高校生グループは、沖縄の特産であるオクラの規格外品を活用した「オクラ麺」を開発。「ご当地！絶品うまいもん甲子園」で準優勝するなど様々な場で高い評価。

現在商品化に向け、県普及センターや商工会の全面的な協力を得て、安定的な原料の集荷体制を整備し、イベント販売や学校給食への導入などのPR活動を実施。



【大人気のオクラそば】

(3) 「木育」活動の拠点づくり（やんばる森のおもちゃ美術館）

国頭村は、村面積の84%を占める「やんばるの森」産木材を使った玩具を用いた「木育」活動の拠点として、「やんばる森のおもちゃ美術館」を11月にプレオープン（本格オープンは4月）。東京おもちゃ美術館（新宿区）と連携し、国頭村森林組合が運営。国頭村は、併せて新生児へ木のおもちゃをプレゼントする「ウッドスタート」を開始。



【おもちゃ美術館】

【沖縄本島】

【南北大東島】

【宮古島】

【石垣島】

【沖縄の農業・農村に関する指標】

・平成25年産さとうきびの生産見込み
【生産量 69万トン、対平年比86%】
(平成25年11月1日現在糖業団体調べ)

・平成24年の主な農業産出額
さとうきび【146億円 対前年比124%】
肉用牛 【144億円 対前年比106%】
豚 【131億円 対前年比104%】

・6次産業化認定事業者数
【51件】(全国認定者数の3%)